

2006 年度

科目名 宗教学	対象学科・学年 文学部日文1回生 教育教福1回生 文学部英米1回生 文学部教福1回生 文学部文財1回生 文学部コミ1回生	担当者 貫名 譲
授業テーマ 日本仏教と、親鸞の説いた仏教		
授業の概要と目標 日本に仏教が伝来したところから始めていきます。6世紀に、中国大陸・朝鮮半島を経由して入ってきた仏教がどのような形で展開していったのかを、時代にそって見ていきます。そして、日本仏教の大きな転換期となった鎌倉時代、新仏教がもたらした影響と、その中から出てきた親鸞の生き様と思想を窺っていきます。 それぞれの視点で「宗教とは何か」を考えながら、「人間性」「生の意味」についても考える機会として欲しいと思います。		
評価方法 筆記試験（60％）、出席状況・授業態度（40％）の総合評価で行います。		
テキスト 経験論の宗教学	著者 荻野 勝行 貫名 譲	出版社 杉山書店
参考書	著者	出版社
授業スケジュール・内容 - はじめに ～「宗教学」の授業とは～ 「宗教」とは何？ ～人間にとって、有益なものか危険なものか？～ - 日本の宗教の特徴 ～日本人の宗教観と、伝統宗教～ - 日本仏教と聖徳太子 ～仏教伝来と、聖徳太子の目指したもの～ - 奈良・平安時代の仏教 ～仏教の理想と現実～ - 鎌倉新仏教 ～仏教再建の志を持った、熱き人たち～ - 親鸞の生涯 ～生き様と人々に与えた影響～ - 親鸞の思想① ～親鸞が信じたもの～ - 親鸞の思想② ～善人よりも悪人が救われると説いた親鸞の人間観～ - 親鸞の思想③ ～仏を信じるとは？ 仏道の果てにあったものとは？～ - 親鸞の思想④ ～わたしもあなたも同じ人間～ - 親鸞の残したもの ～親鸞没後から現在に至るまで～ - まとめ① ～日本仏教のこれから～ - まとめ② ～「こころ」と「ひと」～ - 試験		